

やってみよう!
Let's try!!

今回のトレーニングドッグ

セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: **セラピー練習[フード係]**

目標 フードを見て興奮しない。
トレーナー(自分)の指示が出るまで静かに待てる。
落ち着いて静かに待っていたらフードがもらえるとわかれば、
フードを見て興奮したり飛びついたりしくなくなります。

☆トレーニング☆



ドッグセラピー事業部のセラ
ピードッグとセラピストは、毎
週1回、笠木恵子先生のトレ
ーニングを受けています。
笠木恵子先生
My Dog Training School 主宰
家庭犬訓練士

おてつだい



メロン
ひな

Step1 食器



食器に適量のフードを
入れてドッグに見せ、ア
イコンタクトを取ります。



落ち着いて静かに待て
たらトレーナー(自分)
が指示を出し、食べさせ
ます。

Step2 手のひら



トレーナー(自分)の手
のひらにフードをのせ
て差し出します。



ドッグが口を近づけてく
るようなら手のひらの
フードを握ります
(「グー」にする)。



ドッグが待つ姿勢になっ
たら開きます(「パー」に
する)。グー・パーを繰り返
し、静かに待てるように
練習します。



手のひらを開いてフー
ドを見せても静かに待
てたらトレーナー(自分)
が指示を出し、食べさせ
ます。

Step3 落とす



利用者が誤ってフー
ドを落としてもドッグが
拾わないように練習し
ます。



フードを落とします。
ドッグが一瞬、フー
ドを見てもトレーナーに
視線を戻せれば合格。



ドッグが床のフードを拾
おうとしたら、手のひら
でフードを押さえて「こ
れはトレーナー(自分)
のもの」と教えます。



静かに待てたらトレ
ーナー(自分)が指示を
出し、食べさせます。

最初は1粒だけ。
慣れたらたくさん
落としてみます。

フードを拾わなくて
も必ずもらえること
をわかせます。
静かに待っている方
がフードをもらえたり、
ほめてもらえたり、
良いことがあると
学習させます。

Step4 ほかのドッグに与える



ほかのドッグがフー
ドを食べていても静か
に待てるように練習し
ます。

利用者にフード係をしていただく
時には大きめの食器を使います。
ただし、ご本人が「どうしても手であ
げたい」と強く望まれる場合に限り、
手のひらにフードをのせて与え
ていただきます。
フードを指でつまんで与えると、
ドッグの歯が当たる危険があるので
避けましょう。

これはNG



フードを手で与える時は
手のひらにのせて



(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

http://www.therapydog.jp



燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol. 21 / 冬号
2016年

Contents

- 集団セラピーによる
ドッグセラピー症例報告
- おしらせ: オレンジカフェ
- コラム: ドッグセラピーの現場から
- ボランティア活動報告
- トレーニング: フード係



集団セラピーによる ドッグセラピー症例報告

期間: 2015年9月~継続中(月4回)
内容: 各30分程度の集団セラピー

月4回のドッグセラピーで発語が増加。
介護職員とのコミュニケーション円滑になり
ドッグといっしょに運動・リハビリ実施。

Tさん (70代後半・女性・脳血管性認知症)

ADL(日常生活自立度) B1

介助なしに車椅子に移乗。
食事・排泄はベッドから離れて行う。

認知症高齢者 日常生活自立度IIIb

日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の
困難さが主に日中を中心に見られ、介護を必要とする状態。



《大阪から岡山へ転院》

平成27年3月に心原性脳塞栓と診断され、実娘さんの
暮らす岡山でのリハビリを希望されたTさんは、4月下旬に
岡山市内の回復期病院に転院。Tさんが犬好きである
ため、ご家族が「ドッグセラピー」を強く望まれ、9月に当
グループの回復期リハビリテーション病棟に転院されました。

《Tさんの様子の変化》

Tさんは、9月8日から月4回の集団ドッグセラピーに参加
されています。セラピー参加以前のTさんは表情がかたく、
意欲の低下が見られました。構音障害があり、話す言葉が
聞き取りにくいので、会話は可能なのに他者と話す回数も
減少していました。

セラピー参加後は、初回から発語が増え、表情にも変化が
認められました。ドッグの話題で介護職員との会話が増え、
良好なコミュニケーションが続いています。意欲のレベルは
上がったりがったりを繰り返していますが体調は安定。
セラピーでは、ボールを3mくらい投げると意欲的に動か
れています。また「ドッグのために」と何回失敗しても再挑戦
するなど、部分的な意欲の向上が見られます。ドッグにフー
ドを与えるときには「家の子は行ってしまいうけど、ここの子は
来てくれておとなしい」「きびは顔が大きいけど、ゆきは小
さい」と話されるなど、ドッグの様子を観察して比較されて
います。

《ご家族と職員の記録より》

- ・「疲れた」「帰りたい」など、意欲の低下を示す言動がある。
- ・一方、ドッグの話になると目を輝かせて、身振り・手振りをつ
けて楽しそうに話される。ドッグの話題になると話が止
まらないほど発語が増加。
- ・笑顔、表情の変化が認められる。
- ・(職員に)笑顔でドッグセラピーの話をしてくださる。ドッグ
の話題でコミュニケーションが増加。
- ・セラピー中に他の参加者と会話されている。

《集団セラピー後に認められた変化》

- ・発語の増加(会話能力向上・表情が豊かに)
- ・上肢のリハビリ増加
- ・空間認知力の向上
- ・バランス能力向上

《ご家族の感想》

母が、健全な心を持って楽しく過ごすためにドッグの存在は
不可欠だと感じました。新しいことの記憶が難しい状態なの
に、セラピーの翌々日に話を聞くと、「大きな子と小さい子が
サンタの衣装を着ていてかわいかった」と覚えていたので
驚きました。

オレンジカフェをきっかけに
日常生活が少しずつ変化。



<p>Tさん (77歳・男性・介護認定なし)</p> <p>日常生活自立度 I</p> <p>何らかの認知症を有するが、在宅・自立が可能。</p>	<p>Oさん (84歳・男性・要介護2)</p> <p>日常生活自立度 IIb</p> <p>日常生活に支障をきたすような症状・行動があるが、誰かが注意していれば自立できる。</p>	<p>Tさん (89歳・女性・要介護2)</p> <p>日常生活自立度 IIb</p> <p>日常生活に支障をきたすような症状・行動があるが、誰かが注意していれば自立できる。</p>
--	--	--

Tさんは、ひとり暮らしの認知症高齢者。日常生活はできますが、身だしなみに気を使わず、自宅前の雑草が伸び放題になっていました。ドッグと一緒に迎えに行くと衣服を着替えてオレンジカフェに来場してくださいました。2回目以降は、ご自分ひとりでオレンジカフェに来てくださっています。いつも服装がオシャレで、帽子などの小物にも気を使われるようになりました。毎回、ほかの参加者様と会話してコーヒーを飲んで帰られます。天気の悪い日には「今日は雨だから犬が来れないかと思った」とドッグたちのことを心配してくださることもありました。

Oさんは、認知症状により夕方になると不穏になり、外出準備をすることがあります。症状が止まらないときは、奥様が一緒に自宅の周囲を歩いていらっしやいます。以前はデイケアなど施設には「行きたくない」と言われていましたが、奥様が「メロンが待っているよ」と言うと「じゃあ行こうか」とオレンジカフェを利用して下さるようになりました。帰宅後、楽しんでセラピーの話をするそうです。

Tさんは、オレンジカフェに来られるようになってから、外出時にお化粧されるようになり、お話をよくされるようになり、自宅では食後にご自分で食器を洗うようになられました。

※ドッグセラピー事業部では、オレンジカフェでドッグセラピーをご利用いただいた認知症高齢者様のご家族にアンケートをお願いしています。データを公表する際にはプライバシーに十分配慮し、事前にご家族様より了承をいただいています。

● **要介護度**
要介護度は介護の度合い・大変さを示す指標。8段階に分かれています。

← 軽い → 重い →

非該当 要支援1 要支援2 要介護1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5

● **日常生活自立度**
認知症高齢者の自立度レベルを示す指標。8段階に分かれています。

← 軽い → 重い →

自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M

※認知症のない方の場合「自立」



お知らせ

いきがいライフたかまつ

「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」

毎月2回 **ドッグセラピー(集団)**に参加してみませんか?

ドッグセラピー事業部は、特別養護老人ホーム いきがいライフたかまつ(社会福祉法人義風会)の「オレンジカフェ(認知症カフェ)」で月2回・各20分程度のドッグセラピー(集団)を実施しています。これは、岡山市の「認知症施策の指針(岡山市版オレンジプラン)」に基づく民間委託事業です。参加者様には、笑顔や会話が增えるなど好ましい変化がたくさん見受けられます。

開催日時

毎月第2・4水曜 13時~15時
※ドッグセラピーは13時30分頃から20分程度

喫茶協力

「ひまわりの会」(高松地域ボランティア団体)

メニュー

ドリンク(お菓子付き)各100円

場所

いきがいライフたかまつ 1階・地域交流ホール
(岡山市北区立田586-1 / tel.086-287-8880)

参加申し込み先

介護高齢者ドッグセラピー普及協会
E-mail info@therapydog.jp
※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。

【フード係】

対象症例

このような状態が見られる方に実施します。

- 意欲低下 ● 自発的行動の低下

フードを与える行為で期待できるリハビリ内容

- 上肢筋力向上 ● 体幹の保持 ● バランス能力向上
- 集中力向上…フードをこぼさないように集中するため
- 回想法…昔飼っていたドッグのことを思い出すなど
- 作業記憶…体が覚えている動作ができる
(例)昔飼っていた頃の記憶から自然に「待て」と声が出るなど

注意点

- 声をかけない。セラピストは積極的な働きかけをしないで見守る。
※危険な場合を除く
- 食器を使う。利用者様がフードを手でつまんで与えないように見守る。
どうしても手であげたい場合は、手のひらの真ん中にフードを置くように導く。

ドッグに必要なトレーニング

- フードを見ても興奮しない。指示が出るまで待てる。
- フードが落ちてても静かに待てる
(ドッグが不意に動くご利用者様が転倒する危険があるため)。

【ボランティア活動報告】

ボランティアのみなさんが活躍しています!

12月5日(土)に中国銀行足守支店・稲荷支店のみなさんとご家族あわせて11名がボランティア活動をしてくださいました。ケネル(犬舎)の清掃やドッグたちの歯みがき、健康チェックなどを手伝ってくださったうえ、お子様たちはドッグと楽しく遊んでくださいました。みなさんの笑顔にドッグも大喜び。ボランティア活動終了後、ドッグセラピー事業部の活動についてご説明させていただきました。

ボランティアのみなさんにごお願いしていること(例)

- 食事(与える・食器洗い)
- ケネルの清掃・窓ふき
- 歯みがき
- 健康チェック(目・口・鼻・全身の状態)
- 散歩

ケネルは毎朝、入念に清掃しています。細菌が繁殖しないように細心の注意をはらっています。

【清掃の流れ】

- ① 掃除機・ほうき
- ② 水洗
- ③ 消毒
- ④ 洗浄・ブラッシング
- ⑤ 水洗
- ⑥ 水切り・モップがけ・乾燥
- ⑦ 窓ふき
- ⑧ チェック



ボランティアのご感想

部屋が広くて、いい環境だと思いました。

「一体、どこを掃除するの?」と思うほど清潔でした。あまりのキレイさに驚きました。

中国銀行
足守支店・稲荷支店のみなさん、ありがとうございました。

